

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】令和3年7月26日(2021.7.26)

【公開番号】特開2020-101805(P2020-101805A)

【公開日】令和2年7月2日(2020.7.2)

【年通号数】公開・登録公報2020-026

【出願番号】特願2020-13118(P2020-13118)

【国際特許分類】

G 02 B 5/30 (2006.01)

G 02 F 1/1335 (2006.01)

【F I】

G 02 B 5/30

G 02 F 1/1335 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】令和3年4月28日(2021.4.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

厚みが8μm以下であり、単体透過率が43.5%～44.0%であり、偏光度が99.940%～99.990%である偏光膜と、該偏光膜の少なくとも一方の側に配置された保護層と、を有する偏光板であって、

50cm<sup>2</sup>の領域内における単体透過率の最大値と最小値との差が0.15%以下であり、

長尺状の熱可塑性樹脂基材の片側に、ヨウ化物または塩化ナトリウムとポリビニルアルコール系樹脂とを含むポリビニルアルコール系樹脂層を形成して積層体とすること、および、前記積層体に、空中補助延伸処理と、染色処理と、水中延伸処理と、長手方向に搬送しながら加熱することにより幅方向に2%以上収縮させる乾燥収縮処理と、をこの順に施すことを含む、製造方法により得られる、偏光板。

【請求項2】

厚みが8μm以下であり、単体透過率が43.5%～44.0%であり、偏光度が99.940%～99.990%である偏光膜と、該偏光膜の少なくとも一方の側に配置された保護層と、を有する偏光板であって、

幅が1000mm以上であり、

幅方向に沿った位置における単体透過率の最大値と最小値との差が0.3%以下であり、

長尺状の熱可塑性樹脂基材の片側に、ヨウ化物または塩化ナトリウムとポリビニルアルコール系樹脂とを含むポリビニルアルコール系樹脂層を形成して積層体とすること、および、前記積層体に、空中補助延伸処理と、染色処理と、水中延伸処理と、長手方向に搬送しながら加熱することにより幅方向に2%以上収縮させる乾燥収縮処理と、をこの順に施すことを含む、製造方法により得られる、偏光板。

【請求項3】

請求項1または2の偏光板がロール状に巻回されてなる、偏光板ロール。